

平成 29 年度中国四国地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール 中国四国農政局長賞受賞者の概要

○GAPの部

農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデン

代表者：	代表取締役 宮本泰邦	栽培品目：	温州みかん、かんきつ類
所在地：	愛媛県八幡浜市	取組面積：	2.9ha
応募区分：	個人経営の部	構成員：	8人

取組内容

農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデンは、2015年にGLOBALG. A. P. 及びJGAP(現在はASIAGAP)を、専門コンサルタントに頼らず愛媛県で初めて認証取得(みかん・柑橘類では国内初)し、「こだわり」を持って異なる認証GAPの高度な要求をクリアするなど、自他共に認めるその道のパイオニアである。

自社の開発ソフトを利用して、事務処理の簡素化に成功し、取得コストを大幅に抑えている。また、自社の就業状況や備品等の在庫管理、業務関係改善提案なども開発ソフト上にメニュー化しPDCAサイクルを実践している。

県内農家のGAP取得を推進するため、各種メディアを通じてPRするとともに、各種講演会等で取得のノウハウ等について講演を行っている。また、GAP取得希望者に対し、取得に向けたアドバイス等を実施している。加えて、地元農業高校へのGAP取得支援を積極的に行っていることは将来を見据えた取組として特筆される。

多品種の青果物だけでなく、みかんジュースやゼリー、塩みかん(自社開発の調味料)などの加工品を生産し、ホームページや各百貨店・高級果物店で販売し、先駆的な取組を行っている。



生産性の高い管理園地



倉庫内の選果作業場

平成 29 年度中国四国地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール 中国四国農政局長賞受賞者の概要

○有機農業・環境保全型農業の部

吉備路朝日米特別栽培農産物生産組合

代表者： 組合長 池上信吉	栽培品目： 水稻
所在地： 岡山県総社市	取組面積： 24ha
応募区分： 団体の部	構成員： 31名

取組内容

吉備路朝日米特別栽培農産物生産組合は平成7年に設立され、現在組合員31名、作付面積24haで、レンゲ緑肥を利用した特別栽培米「朝日」を栽培している。

同組合が位置する総社市ではレンゲが市のシンボルとして親しまれていることから、レンゲを緑肥として利用した環境保全型農業へ取り組んだ。

岡山県を代表する朝日は良食味米であるが、倒伏しやすく栽培が難しいため、レンゲ緑肥栽培には不向きとされていた。しかし、組合は関係機関とも連携して現地実証を重ねて栽培技術を確立し、レンゲ緑肥を利用した環境保全型農業を地域に定着させるとともに、県農業研究所とも連携して安定栽培に資するツールを開発し、県内の他地域でも導入されている。

また、毎年開催される吉備路れんげまつりには組合員のレンゲほ場を目当てに毎年多くの観光客が訪れるなど、美しい景観形成と地域振興に大きく貢献している。さらに、保育園へのレンゲほ場の開放や市の給食への提供など、地域の子供たちが地元のシンボルであるレンゲを利用したお米と、地域への愛着を深める活動も積極的に行っている。

このように、同組合は地元のシンボルであるレンゲを軸にした活動を展開し、栽培技術の確立にとどまらず、安定栽培に資するツール開発、レンゲを通じた地元への愛着を深める地域貢献が大いに評価される事例である。



現地実証ほ場



保育園へほ場開放